

第14期 事業・決算報告書

2024年4月 1日から
2025年3月31日まで

I. 事業報告 1ページ

II. 附属明細書（事業報告） 20ページ

III. 決算報告

1. 財務諸表

(1) 貸借対照表 21ページ

(2) 貸借対照表内訳表 23ページ

(3) 正味財産増減計算書 24ページ

(4) 正味財産増減計算書内訳表 28ページ

(5) 財務諸表に対する注記 31ページ

(6) 附属明細書 34ページ

(7) 財産目録 35ページ

2. 監査報告書 39ページ

第 14 期 事業報告 (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

公益財団法人日本陸上競技連盟では陸上競技のさらなる発展のために、選手の競技力強化及び普及活動という二大事業を遂行するための組織基盤の確立を目指すとともに、相互の好循環を生み出すように各事業に取り組んだ。

主な事業は以下の通り。

1. 指導者養成及び陸上競技の普及に関する事業

(1) 指導者養成

1) 「指導者養成指針」に基づいた指導者養成及びコーチ資格制度の整備

「全ての指導者にコーチ資格取得を持って活動にあたる」環境づくりを目指し、加盟団体及び協力団体の「JAAF エducator（コーチ養成者）」をはじめとする指導者養成担当者と相互理解を図りながら、日本スポーツ協会（JSPO）と連携したコーチ資格制度の整備に取り組んだ。

・コーチ資格の標準化の推進

一般団体の成立条件として、2027 年度からは、中学生以下が所属する団体にコーチ資格を有する者及び審判員資格を有する者を配置することを必須条件とし、協力団体及び一般団体に周知した。

・ランニングコーチの新設検討

講師養成、カリキュラム、対象となる指導者等について考え方を整理した。

2) JAAF エducator の養成と連携

本連盟の指導者養成に対する考え方を理解し、地域における指導者養成及び指導体制づくりを牽引する「JAAF エducator」の養成に注力した。2024 年度は 1 回の養成講習会を実施し、年度中に加盟団体に 1 名以上の JAAF エducator が配置されている状況を目指した結果、39 加盟団体での配置が完了した。講習会の開催状況、JAAF エducator の配置状況は次の通りである。

《JAAF エducator 養成講習会》

期 日：2024 年 12 月 14 日（土）～12 月 15 日（日）

会 場：味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）

受講者：加盟団体から推薦された JAAF 公認コーチ有資格者

修了者：23 人

《JAAF エducator 認定数》

※JAAF エducator 養成講習会を修了し、スタートコーチ養成講習会の運営と統括講師を経た上で本連盟指導者養成委員会が認定する。

2025 年 3 月 31 日時点

認定者数：73 人

配置状況：39 加盟団体（設置率 83%）

3) JAAF 公認コーチ（JSPO 陸上競技コーチ）の養成

「JAAF 公認スタートコーチ（JSPO 陸上競技スタートコーチ）」、「JAAF 公認ジュニアコーチ（JSPO 公認陸上競技コーチ 1）」及び「JAAF 公認コーチ（JSPO 公認陸上競技コーチ 3）」の 3 カテゴリーで養成講習会を実施し、有資格者の拡充を図った。

中学校部活動の地域展開により、指導者、とりわけ有資格者の存在および役割が重要となっている。スタートコーチにおいては、陸上および指導経験の浅い指導者が多く受講していると同時に、経験豊富なシニア世代の指導者が改めてコーチングの基礎を学び、資格を取得して指導現場に立つというケースが増えている。このように、社会の流れにあった指導者の拡充を進めていきたい。

JSPO 公認陸上競技コーチ資格（スタートコーチ、コーチ 1～4）の保有者数は、2024 年 10 月 1 日付で 7,185 人となり、2023 年度から 687 人の増加であった。

なお、2024 年度の新規養成講習会の実施状況は次の通りである。

・ JAAF 公認スタートコーチ養成講習会

開催会場数（開催加盟団体数）：42 会場（35 加盟団体）

※2023 年度比+5 会場（+7 加盟団体）

※1 日の集合講習

修了者数：652 人

※2023 年度比+31 人

・ JAAF 公認ジュニアコーチ講習会

開催会場数（開催加盟団体数）：33 会場（32 加盟団体）

※2023 年度比+4 会場（+4 加盟団体）

※本連盟主管の特設会場は 3 日間の対面開催とし、
それ以外の会場は、1 日のオンライン講習と 2 日間の対面（集合講習）で実施。

※オンライン講習は本連盟が主管し 8 会場（複数の加盟団体が合同）で実施。

修了者数：736 人

※2023 年度比+2 人

・ JAAF 公認コーチ養成講習会

※オンライン講習（1 日のライブ講義+オンデマンド講義）と 2 日間の集合講習。

①オンライン講習

ライブ講義：2024 年 7 月 7 日（日）

オンデマンド講義：2024 年 7 月 8 日（月）～9 月 8 日（日）

受講者：99 人

②集合講習

※会場はすべて、味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）で実施した。

A 会場：2024 年 10 月 19 日（土）～10 月 20 日（日） 受講者 28 人

B 会場：2025 年 1 月 11 日（土）～1 月 12 日（日） 受講者 70 人

専門科目修了者：70 人

※過年度への持越し：17 人（オンラインのみ修了 8 名、未受講 9 名）

4）有資格指導者の管理と定期情報発信

有資格指導者：7,185 人（2024 年 10 月 1 日現在）

有資格指導者への情報発信、資格更新研修の申請、資格失効者の復活登録申請等、有資格者のサポートを行った。

有資格者への情報提供として、メールマガジン「Coaching Info」の配信を7回行った（本連盟主催競技会やイベントに関する案内等を含む）。

また、更新研修の実施回数、及び資格失効者の復活登録申請の状況は次の通り。

更新研修の開催数：38会場（21加盟団体）

資格失効者の復活：9人

5) コーチングクリニック（指導者資格の更新研修）

陸上の指導にあたるコーチに向けた研鑽及び情報提供の機会として、第31回JAAFコーチングクリニックを2025年2月23日（日）に開催した。本クリニックは、JAAFコーチ資格（JSPO 陸上競技コーチ資格）の更新のための研修としても位置付けた。今回のテーマは、「コーチが導くアスリートの成長」とし、スポーツ心理学者で国士舘大学准教授の秋葉茂季氏と、現役アスリートでありコーチング学の博士号を持つ戸邊直人氏を迎えてオンライン配信による講義を行った。参加者は70人であった。

(2) 日清食品カップ 全国小学生陸上競技交流大会

本大会は40回目を迎え、第1回大会からの全国大会への参加者は延べ34,000人に上る。また、本大会経験者の中からオリンピック・世界選手権に出場した選手は42名に及ぶ。これらの数字からもわかるように、小学生世代への陸上の普及や、将来的に世界で活躍する選手の輩出という設立時の願いは現実のものとなっている。今後も、小学生世代の育成の在り方に沿って、本大会が小学生にとって生涯に渡り陸上に親しむきっかけとなるよう、また指導者にとって貴重な研鑽となるよう、大会づくりを目指していく。

・日清食品カップ 都道府県小学生陸上競技交流大会

47都道府県において開催され、26,520人の小学生が参加した。都道府県大会の様子や全国交流大会実施種目に出場した全選手の記録を「My Record」として本連盟ウェブサイトに掲載した。

＜＜My Record 掲載人数＞＞

（個人種目）

5年100m	4,672人（男：2,419人、女：2,253人）
6年100m	4,628人（男：2,368人、女：2,260人）
コンバインドA	1,392人（男：684人、女：708人）
コンバインドB	3,140人（男：1,852人、女：1,288人）
（小計）	13,832人（男：7,323人、女：6,509人）
男女混合4×100mリレー	3,788人（947チーム）
合計掲載	17,620人

・日清食品カップ 第40回全国小学生陸上競技交流大会

2024年9月21日（土）～9月23日（月・祝）、日清食品カップ 第40回全国小学生陸上競技交流大会を開催した。第40回大会は記念大会として、東京・国立競技場で開催し、各都道府県大会に出場した選手の中から都道府県選手団として選抜された650人の小学生と361人の指導者（監督・コーチ、支援コーチ）が参加した。

大会の概要及び参加者（選手・指導者）等詳細は次の通り。

＜＜概要＞＞

大会日程

9月21日（土）	…集合、スタジアムツアー、前日練習、指導者研修会
9月22日（日）	…開会式、競技会、フレンドシップパーティー、指導者交流会

9月23日（月・祝）...カップヌードルミュージアム 横浜見学

参加者：1,011人

（選手：650人、指導者：361人（監督・コーチ185人、支援コーチ176人））

（3）普及イベント

競技者育成指針に沿って、陸上競技の普及、特に子どもたちや子どもを取り巻くアントラージュへの普及を積極的に行った。

（1）や（2）の事業とあわせて、アスレティックファミリーの拡大に向け、子どもたち（キッズ）をターゲットにした「キッズデカスロンチャレンジ」を日本選手権やリレーフェスティバル等で実施した。また、体育の日中央記念行事「スポーツ祭り」において、オリンピックを招いた陸上体験教室を行った。以下にそれぞれの実施イベントについて報告する。

1）キッズデカスロンチャレンジ

＜実施競技会と参加者数＞

No.	競技会名	都道府県	期日	参加者
1	第58回織田幹雄記念国際陸上競技大会	広島	2024年4月29日（月・祝）	100人
2	第39回静岡国際陸上競大会	静岡	2024年5月3日（金・祝）	200人
3	第11回木南道孝記念陸上競技大会	大阪	2024年5月12日（日）	150人
4	セイコー ゴールデングラプリ陸上2024 東京	東京	2024年5月19日（日）	479人
5	岩手県小学生陸上競技交流大会	岩手	2024年6月23日（日）	104人
6	埼玉県小学生陸上競技交流大会	埼玉	2024年6月23日（日）	130人
7	新潟県小学生陸上競技交流大会	新潟	2024年6月23日（日）	68人
8	第108回日本陸上競技選手権大会	新潟	2024年6月29日（土） ～6月30日（日）	219人
9	茨城県小学生陸上競技交流大会	茨城	2024年7月14日（日）	147人
10	千葉県小学生陸上競技交流大会	千葉	2024年7月14日（日）	108人
11	京都府小学生陸上競技交流大会	京都	2024年7月21日（日）	30人
12	日清食品カップ 第40回全国小学生陸上競技交流大会	東京	2024年9月22日（日）	200人
13	みんなでつなごう リレーフェスティバル2024	東京	2024年10月5日（土） ～10月6日（日）	379人
14	第78回国民スポーツ大会	佐賀	2024年10月13日（日）	333人
合計				2,647人

2）令和6年度「スポーツの日」中央記念行事2024 スポーツ祭り

2024年10月14日（月・祝）、味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）において、スポーツ庁、日本スポーツ振興センター（JSC）、日本スポーツ協会（JSPO）、日本オリンピック委員会（JOC）等の協力事業「2024 スポーツ祭り」が開催され、東京都北区の小学生と保護者（小学1～6年生の50組）を対象に陸上競技体験教室を行った。参加者に、オリンピックの指導による「走る」「跳ぶ」「投げる」プログラムを提供した。

2. 陸上競技の競技力の向上に関する事業並びに陸上競技の国際競技会等に対する代表参加者の選定及び派遣に関する事業

(1) 選手強化

1) 強化方針

「複数年に渡り世界で活躍できる確固たる実力をつける」ことを強化活動目標に掲げ、そのためにポイントとなる「国際競技会での自己記録達成率をいかに上げることができるか」に焦点をあてた強化計画として、2024 年度もダイヤモンドリーグに参加した選手に対して、一人 2 競技会参加分の費用補助を行った。2024 年度の補助対象人数は、男子 15 名、女子 5 名、計 20 名であった。また、ダイヤモンドリーグファイナルに出場した選手は、サニブラウンアブデルハキーム (100m)、泉谷駿介 (110mH)、ディーン元気 (やり投)、田中希実 (5000m)、北口榛花 (やり投) の 5 名であった。

最重要競技会は、パリ 2024 オリンピック競技大会である。メダルは金 1、入賞は 10 獲得し、プレッシングテーブルでは 15 位 (34 ポイント) の成績を収めた。入賞 11 (メダルを含む) は戦前を含めると史上最多タイで、近年での最高成績だった東京 2020 オリンピック競技大会 (入賞 7) を上回るものであった。特筆すべきは、女子やり投の北口榛花の金メダルである。この金メダルは種目史上初の快挙であるとともに、北口は昨年のブダペスト 2023 世界陸上競技選手権大会での金メダル、同年のダイヤモンドリーグファイナルでの優勝に今回の金メダルを加えて、まさに名実ともに世界一の称号を手に入れることができた。このことは強化委員会の目指す「複数年に渡り世界で活躍できる確固たる実力をつける」モットーの旗印となる大きな成果であるといえる。

過去のオリンピックにおけるプレッシングテーブルの変遷をみると、ロンドン 2012 オリンピック競技大会では 16 点、リオ 2016 オリンピック競技大会では 17 点、東京 2020 オリンピック競技大会では 28 点であったポイントがパリでは 34 ポイントへと引き上げられた。この結果から、陸上競技全体の国際競技力は右肩上がりである (順位としては 21 位→25 位→17 位→15 位) ことが示された。さらに、近年の成績では、マラソン、リレー、競歩等、ある程度限られた種目でのメダル獲得や入賞が続いていたが、パリでは、さまざまな種目から入賞者を出すことができ、「陸上競技」としての成果が示されたことが大きな収穫であると考えている。

2) U16、U20 カテゴリー強化

U20 強化対策として、U20 アジア陸上競技選手権大会 (ドバイ)、U20 世界陸上競技選手権大会 (リマ) の国際競技会に幅広い選手を派遣した。また、11 月、1 月、2 月と U20 オリンピック育成競技者とその指導者を対象に U20 オリンピック育成競技者研修合宿を味の素ナショナルトレーニングセンター (NTC) にて実施した。研修合宿では、座学を中心に、栄養、アンチ・ドーピング、SNS、オリンピック講話等を実施し、トレーニングでは、専門的トレーニングから少し離れ、トランスファートレーニングに取り組み、この世代に見合った内容の合宿を組んで、選手の指導者にも共有することができた。

U16 カテゴリーも、選拔選手とその指導者に 1 月の U20 オリンピック育成競技者研修合宿に参加してもらい、U16 カテゴリーに見合った別の座学研修を実施した。国内最高峰のトレーニング施設で 4 日間過ごすことで、今後の競技継続や陸上競技のみならず、日本のトップ選手の雰囲気を感じてもらうことができたと感じる。

指導者の研修合宿の参加率は過去に比べて非常に高く、これまで以上にアンダーカテゴリーでの本連盟としての活動や取り組みに高い関心をもってもらえていることが感じられた。選手の育成に向けてより良い取り組み・仕組みづくりを検討する。

3) ダイヤモンドアスリート

継続競技者として、北田琉偉（日本体育大学）、澤田結弥（ルイジアナ州立大学）、永原颯磨（順天堂大学）の3名及び新規認定競技者として中谷魁聖（東海大学）からなる第10期ダイヤモンドアスリート4名を認定した。また、第11期から新たにダイヤモンドアスリート Nextage という制度を作り、3名を認定した。ダイヤモンドアスリート修了生の活躍によって、ダイヤモンドアスリートに対する注目や期待度は年々高まってきており、ダイヤモンドアスリートになること自体が、認定者にとって非常にハイレベルな挑戦をすることになりつつある。より可能性を秘めた競技者が、自信を持ってステップアップできるよう、ダイヤモンドアスリートの準備段階として、ダイヤモンドアスリート Nextage を設けた。ダイヤモンドアスリート Nextage のプログラムは、ダイヤモンドアスリートと同じ研修を受けることになる。

今年度のプログラムでは、2023年度に引き続きメディア研修と、栄養実践研修の他、スポーツ心理とメンタルヘルスを中心に研修を実施した。東京マラソン財団のスポーツレガシー事業の支援によるダイヤモンドアスリートプログラムでは、引き続き、競技力向上だけに焦点を当てるのではなく、将来的にスポーツ界で活躍する人材の育成を図っている。

4) ライフスキルトレーニングプログラム

2020年からスタートした本プログラムも、5期目を迎えた。11月に受講者募集を開始し、20名の応募があった。書類選考の後、16名と面接をし、10名の受講生が決定した。12月から講義を開始し、月1回の全体講義と、グループコーチングを行った。2025年3月15日（土）、16日（日）の全体講義は、味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）において対面で実施し、ライフスキルトレーニング修了生も参加した。3月のグループコーチング終了後、講師と受講生との個別コーチングを実施し、トラック&フィールドシーズンを迎える。

5) ハイパフォーマンスリーダーズプログラム

2024年度より、以下の趣旨・対象において、新たなプログラム、ハイパフォーマンスリーダーズプログラムが発足した。

＜趣旨＞

国際競技力向上、世界で活躍するアスリートを育成するために、トップコーチ（ハイパフォーマンスコーチ）の養成は重要である。トップコーチになり得る人材に対し、早い段階から将来像を意識した環境のもとで適切なプログラムを提供し、国際レベルの競技者の育成、日本陸上界の国際化、陸上の価値向上に貢献できる人材を育成する。

＜対象＞

日本代表選手としてオリンピックまたは世界選手権に出場し、現在指導または選手強化に関わっている者及び今後関わる意思がある者

＜対象者＞

戸邊直人、寺田明日香、中村明彦、福島千里、福士加代子

12月より開始し、以下のプログラムに参加した。

- ・ライフスキルトレーニングプログラム
- ・U20 オリンピック育成競技者及び指導者を対象とした研修合宿
- ・U19 強化研修合宿（全国合宿）

(2) 国際競技会への代表参加者選定及び派遣

強化方針に則り、以下の国際競技会に日本代表選手を計画的に派遣した。

- ・第 30 回世界競歩チーム選手権大会 (2024 年 4 月 アンタルヤ／トルコ)
- ・第 21 回 U20 アジア陸上競技選手権大会 (2024 年 4 月 ドバイ／UAE)
- ・2024 世界リレー (2024 年 5 月 ナッソー／バハマ)
- ・第 1 回アジアリレー (2024 年 5 月 バンコク／タイ)
- ・アジア投てき選手権大会 (2024 年 6 月 木浦／韓国)
- ・第 33 回オリンピック競技大会 (2024 年 8 月 パリ／フランス)
- ・第 32 回日・韓・中ジュニア交流競技会 (2024 年 8 月 慶尚北道／韓国)
- ・第 20 回 U20 世界陸上競技選手権大会 (2024 年 8 月 リマ／ペルー)
- ・2025 世界室内陸上競技選手権大会 (2025 年 3 月 南京／中国)
- ・第 20 回アジアマラソン選手権大会 (2025 年 3 月 嘉興／中国)

(3) 医科学サポート研究及び調査

1) 医事

- ・日本選手権をはじめとする主要国内競技会に医事委員を派遣し、選手のコンディションチェックのみならず、コーチ等ともコミュニケーションを図った。
- ・国際競技会日本選手団にドクターとトレーナーを派遣し、選手サポートを務めた。またドクターを派遣しない競技会については、選手団帯同トレーナーと日本にいるドクターやスポーツファーマシストが連携し、メディカルサポートチームとして選手を支えた。
- ・パリ 2024 オリンピック競技大会において、事前合宿地と選手村の 2 か所それぞれにドクターとトレーナーを配置し、各所対応スタッフ間で情報を共有し、どこにいても適切な対応が取れるよう務めた。
- ・帯同ドクター及び帯同トレーナーによる代表チームのメディカルサポートを実施した。代表決定後、メディカルアンケートを実施し、定期的に選手の体調を把握、選手からの質問に答え、多くの選手が最高のパフォーマンスを発揮出来るように準備を行った。
- ・代表選手使用のサプリメントについて、1 件ずつアンチ・ドーピングの視点から、帯同ドクター及び薬剤師（スポーツファーマシスト）が確認した。
- ・国立スポーツ科学センター（JISS）におけるパリ 2024 オリンピック競技大会派遣前のメディカルチェックを実施し、帯同ドクター及びトレーナーが強化合宿及びトレーニングに帯同した。
- ・各競技会において使用する医薬品は、処方箋を必要としない OTC 医薬品（市販薬）を中心に準備した。処方薬のように十分な対応ができないこともあったが、それぞれの帯同ドクターが臨機応変に対応した。
- ・メディカル質問箱を運用し、様々な領域の質問にウェブサイト上で医事委員会が回答し、陸上競技者が抱える問題の解決に努めた。
- ・高校駅伝における不適切な鉄剤注射の撲滅を目指し、2019 年から実施している血液検査を引き続き実施した。
- ・「高校生・大学生陸上競技選手の栄養補給を考える」栄養セミナーをオンラインで実施した。ジュニア期にスポーツ栄養部が栄養サポートをした三浦龍司（SUBARU）に事前に話を伺い、幼少期、中高生、大学、現在とそれぞれの時期について栄養の観点から話をしてもらった。

- ・U19 強化研修合宿宿舎料理長への栄養指示書と研修教材を見直した。
- ・各種栄養セミナーの講師担当、及び研修方法を見直し、アクティブラーニングを増やした。
- ・国際競技会が開催される現地の食・水事情に関する情報提供リーフレットの作成等を行った。
- ・引き続き、栄養摂取のポイントやレシピ等について本連盟ウェブサイトや SNS を通して継続的に情報発信をした。

2) 科学

2024 年度における主な活動は、以下の 4 点を重点的に実施した。

- ・国内パフォーマンス分析サポート (U20/U18 選手を含む)
- ・コンディション及び暑さ対策 (マラソン及び競歩)
- ・育成年代アンケート調査
- ・U20 オリンピック育成競技者研修合宿 (体力測定)

日本スポーツ振興センター (JSC) からの外部予算も活用しながら、各種目、専門分野ごとに科学委員会担当者を配置し、強化現場のニーズを汲み取りながら、諸活動を展開した。活動の報告は、陸上競技研究紀要にて、21 編掲載している (短距離 2 本、長距離・障害物 2 本、ハードル 3 本、跳躍 4 本、投擲 4 本、混成 2 本、競歩 1 本、調査 3 本)。

国際競技会 (バハマ 2024 世界リレー、ダイヤモンドリーグ・ロンドン大会、パリ 2024 オリンピック競技大会) では、選手へのパフォーマンス分析のフィードバック等を目的に科学委員を派遣した。また、パリでは、マラソン・競歩選手に対して暑熱対策サポートを実施した。

U20 オリンピック育成競技者測定研修合宿において体力測定とそのフィードバック、科学的観点からの研修を行い、アンダーカテゴリーの競技者育成サポートを行った。全国高等学校体育連盟陸上競技専門部が 11 月～1 月にかけて実施する U19 強化研修合宿・ブロック合宿 (全国 8 ブロック)、及び、3 月の U19 強化研修合宿・全国合宿においてもスポーツ科学の研修を実施した。3 月 18 日 (火) には、「こころとからだの健康を尊重する陸上競技のために」をテーマとして、選手、指導者等に向けたオンライン研究活動報告会を実施した。

(4) アンチ・ドーピング活動

アンチ・ドーピング活動の推進として、本連盟主催及び後援等、46 の競技会において、尿検査、血液検査を実施した。そのうち 29 競技会へ NFR (ナショナルフェデレーションリプレゼンタティブ) を派遣し、ドーピング検査が適正に行われているかどうかを確認した。

- ・日本選手権における血液検査では、開催地の医療機関の協力を得た。
- ・日本アンチ・ドーピング機構承認 Educator となった 2 名を中心として教育啓発活動を実施した。日本アンチ・ドーピング機構と連携したアンチ・ドーピング研修会や医事委員による研修会は主にオンラインで実施した。合宿や海外遠征中の選手やスタッフも研修会に参加することが出来、より多くの方にアンチ・ドーピングについて周知することが出来た。全国強化責任者会議やトレーナーセミナー、指導者養成講習会においても医事委員会によるアンチ・ドーピング講習をオンラインで実施し教育啓発を行った。
- ・U19 強化研修合宿では、アンチ・ドーピング啓発について動画を作成し、全国 8 ブロック合宿でオンデマンド研修を実施した。

- ・U20 オリンピック育成競技者研修合宿(2024 年 11 月と 2025 年 1 月)では承認 Educator から選手とその指導者に向けてアンチ・ドーピング研修を実施した。
- ・アンチ・ドーピング教育啓発冊子である「クリーンアスリートをめざして 2024」をジュニアカテゴリーの競技会参加者や、研修会(選手・指導者共に)で配布した。
- ・アンチ・ドーピング規則違反が複数発生したことを受け、陸上競技部を有する実業団(企業)代表(社長等)と大学学長向けに「アンチ・ドーピング活動の徹底」について、本連盟、日本実業団陸上競技連合、日本学生陸上競技連合の 3 団体連名で、通知文書を発送した。
- ・強化指定競技者及びその指導者のうち、中距離・長距離・マラソン・競歩種目を対象にバイオロジカルパスポートに特化した研修を実施した。選手・スタッフの疑問点を解消するような内容の研修となった。
- ・競技会外検査における検査未了の防止対策として、登録検査対象者リスト(Registered Testing Pool=RTP) 競技者に対して居場所情報の適切な登録及び適宜変更に関する注意喚起を行った。加えて検査未了が発生した RTP アスリートを対象に承認 Educator が 1on1 ミーティングを実施し、2 回目のミスを防ぐための対策を行った。

(5) トレーナー活動

- ・国内主要競技会にトレーナー部員を派遣し、競技会での救護活動及びトレーナーステーションの設置を行った。主要国際競技会に 19 名のトレーナーを派遣しドクターと協力して選手サポートを実施した。
- ・新規の登録トレーナーを養成するトレーナーセミナーを昨年度につづき、味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)で 2025 年 3 月 7 日(金)～3 月 9 日(日)、対面にて開催した。
- ・トレーナー部員対象の研修として、2024 年 8 月 25 日(日)に第 51 回研修会「陸上競技における救護活動」を対面で、2025 年 1 月 13 日(月・祝)に第 52 回研修会「陸上競技における救護活動の基礎知識と対応事例」をオンラインで実施した。第 51 回は 99 名、第 52 回は 253 名が受講した。また、8 月の研修で課題となった実技研修の充実を図るため、2025 年 3 月のトレーナーセミナーで、同時に「救護の基礎研修会」と「テーピング基礎研修」を実施し、28 名の部員がスキルアップ研修を受講した。
- ・新しい取り組みとして、U20 カテゴリーの選手や強化育成部の指導者がメディカルサポートチームとコミュニケーションをとり、スムーズな国際競技会派遣に繋げるために、U20 オリンピック育成競技者の研修合宿や遠征には、これまで選手団帯同が少ないトレーナーを派遣した。
- ・トレーナー部員が中心となって競技会会場でコンディショニング相談や情報発信、調査等を実施するアウトリーチプログラムを 2024 年 10 月 18 日(金)～10 月 20 日(日)の第 18 回 U18/第 55 回 U16 陸上競技大会で実施した。過去に実施した活動からドクターと共にブースを設置することに意味があると考え、ドクター、スポーツファーマシスト、トレーナーが協力してアウトリーチ活動を実施した。

3. 国際競技会、日本選手権大会及びその他の競技会の開催に関する事業

(1) 国内競技会の開催

競技会名	開催日	開催地
第 108 回日本陸上競技選手権大会・ 35km 競歩	能登半島地震の影響で中止 (第 108 回日本選手権・35 km 競歩は第 61 回全日本 35 競歩高島大会で併催)	石川県輪島市
第 108 回日本陸上競技選手権大会・ 10000m ※パリ 2024 オリンピック選考競技会	2024 年 5 月 3 日 (金・祝)	小笠山総合運動公園 静岡スタジアム
セイコーゴールデングランプリ陸上 2024 東京 ※WA コンチネンタルツアーゴールド	2024 年 5 月 19 日 (日)	国立競技場
第 108 回日本陸上競技選手権大会・ 混成競技／第 40 回 U20 日本陸上競技 選手権大会・混成競技 ※パリ 2024 オリンピック選考競技会	2024 年 6 月 22 日 (土) ～6 月 23 日 (日)	岐阜メモリアルセンター 長良川競技場
第 108 回日本陸上競技選手権大会／ 第 40 回 U20 日本陸上競技選手権大会 ※パリ 2024 オリンピック選考競技会	2024 年 6 月 27 日 (木) ～6 月 30 日 (日)	デンカビッグスワン スタジアム
第 108 回日本陸上競技選手権大会・ リレー競技／みんなでつなごう リレーフェスティバル 2024 ※国立競技場で 3 回目の開催	2024 年 10 月 5 日 (土) ～10 月 6 日 (日)	国立競技場
第 18 回 U18／第 55 回 U16 陸上競技大会 ※2025 年、2026 年も開催予定	2024 年 10 月 18 日 (金) ～10 月 20 日 (日)	三重交通 G スポーツの杜 伊勢陸上競技場
皇后盃 第 43 回全国都道府県対抗女子駅伝 競走大会	2025 年 1 月 12 日 (日)	京都府・京都市
天皇盃 第 30 回全国都道府県対抗男子駅伝 競走大会	2025 年 1 月 19 日 (日)	広島県・広島市／廿日市市
第 108 回日本陸上競技選手権大会・ 室内競技 ※2025 年度大会をもって終了	2025 年 2 月 1 日 (土) ～2 月 2 日 (日)	大阪・大阪城ホール
第 108 回日本陸上競技選手権大会・20km 競歩 ※東京 2025 世界陸上競技選手権大会選考 競技会	2025 年 2 月 16 日 (日)	兵庫県・神戸市
第 109 回日本陸上競技選手権大会・35km 競歩 ※東京 2025 世界陸上競技選手権大会選考 競技会	2025 年 3 月 16 日 (日)	石川県・能美市

- 1) 日本陸上競技選手権大会において、2020 年新型コロナウイルス以降の観客数（チケット購入＋招待）は、2020 年（新潟）：5,218 名、2021 年（大阪）：8,566 名、2022 年（大阪）：11,812 名、2023 年（大阪）：16,963 名、2024 年（新潟）：21,871 名と徐々に増加傾向にある。ただ、チケット売上額についてはコロナ前のピークの金額水準に近づいているも

の、チケット販売枚数では 2016 年（名古屋）の 29,108 枚と比較し、2024（新潟）は 13,856 枚にとどまっている。観戦者へのアンケートでは、2023 年、2024 年のゴールデングランプリ陸上のチケット購入者の 6～7 割が初めての観戦であった。課題として、競技の魅力・楽しみ方を初めての観戦者にも伝える仕組みが不足している。2025 年度は初めて来場者する観戦者の満足度を向上させ、リピート観戦につなげる施策に取り組む。

- 2) 6 月の第 108 回日本陸上競技選手権大会／U20 日本陸上競技選手権大会では、マスターズ種目や、デフ、パラ種目を実施し、生涯にわたって陸上を楽しむ、障害のある人がスポーツを楽しむ、機会としている。

（2）登録会員

- ・2023 年度より登録システムを変更した。2023 年度は操作性に課題が多くあったため、2024 年度に改善改修を行った。その結果、問合せ数は大幅に減少した。
- ・2024 年度登録会員数は 412,660 人で、前年度比－2,380 人（－0.5%）の減少であった。
- ・カテゴリ別では、中学生以外は微増であったが中学生が約 6,000 名減少（－3.2%）した。少子化による中学生人口の減少率は約－1.2%であるので、それを上回る減少分については学校部活動の地域移行の影響であると推測する。

〔登録会員の内訳〕

※（ ）内は対 2023 年度比

一 般	大 学	高 校	中 学	小学生	合 計
77,270 人 (+965 人)	19,900 人 (+400 人)	97,623 人 (+925 人)	187,319 人 (－6,278 人)	30,548 人 (+1,608 人)	412,660 人 (－2,380 人)

- ・加盟団体やアスレティックファミリーの利便性の向上を目的として開発してきたエントリーシステムも導入加盟団体が増え、運用も安定してきた。導入いただいた加盟団体からは、初期導入時の説明だけでその後はほとんど問合せも無いことから、利便性が高いものが構築できたと考えている。2025 年度はさらなる導入加盟団体の増加にむけて、告知をしていく。2024 年度の活用状況は約 400 大会（33 加盟団体）であった。
- ・陸上の面白さの根幹である記録情報をアスレティックファミリーに提供することを目的とした記録管理システムの開発を行った。千葉、静岡、三重、滋賀の 4 つの加盟団体にご協力をいただき先行テストの運用を行った。ワールドアスレティックス（WA）の記録システムとのシステム連携、ランキング表示の機能開発等もおおよそ基本的な部分の開発が完了した。いよいよ 2025 年度から、各加盟団体からの公認記録申請先を本連盟に変更し、本格運用に入っていく。記録情報の提供により、登録会員に登録するメリットを感じてもらえるようにする。

（3）競技会の運営及び審判員の養成

- ・競技会の運営、記録の管理、審判員の資質向上のための方策及び競技規則の検討を行った。
- ・WA の競技規則変更が随時行われるようになったので、WA カウンシル会議の結果を踏まえて、随時対応を検討している。
- ・WA ブロンズレフェリーの試験が実施され、186 名が受験し 144 名が合格した。
- ・WA ブロンズ競歩審判員の試験が実施され、15 名が受験し 12 名が合格した。
- ・これらの結果、これまでの合格者も含めて、WA シルバーレフェリー 2 名、ブロンズレフェリー 144 名、ゴールド競歩審判員 2 名、シルバー競歩審判員 1 名、ブロンズ競歩審

判員 13 名となった。将来的にワールドランキングコンペティション(WRk 対象競技会)での審判長、審判主任を務めていただくために必要な資格となる予定である。

- ・全国競技運営責任者会議を 2025 年 2 月 15 日(土)に対面・オンラインのハイブリッド形式で実施した。

(4) 公認陸上競技場・公認長距離競走(歩)路・用器具の検定

- ・公認競技会等の運営が支障なく行われ、樹立された記録が十分信頼し得る陸上競技場、長距離競走(歩)路及び競技用器具とするための検定を実施し、その結果報告に基づき厳正な審査をした。
- ・WA 認証競技場の更新に伴う目視検査を実施し、WA に報告した。
- ・検定技術の向上と正確な検定を行うため、次期委嘱者を対象にした全国検定員会議と全国自転車計測員会議及びブロック別に実技研修を実施した。また、検定業務を情報共有するため競技場施工会社、用器具製造会社向けの研修会を開催した。

4. その他の事業

(1) 機関誌等の発行及び広報

- ・陸連時報(陸上競技マガジン掲載)／毎月発行
- ・陸上競技ルールブック 2024
- ・陸上競技研究紀要 VOL.20 2024
- ・日本代表選手団 TEAM JAPAN の競技会前の事前合宿等をはじめ、競技だけではない裏側の様子を伝える「陸上日本代表 CAM」公式チームカメラをパリ 2024 オリンピック競技大会で実施した。本連盟だからこそ伝えることが出来る内容とし、密着ドキュメンタリー「Behind The Stage」を制作配信した(長編バージョン×3本、個々の選手に焦点を当てたショートバージョン×40本)。
- ・2024 年 12 月 19 日(木)に開催した「アスレティックス・アワード 2024」において、競技中には見られない選手の姿等の舞台裏「舞台裏ムービー」を制作配信した。
- ・加盟団体や協力団体、評議員、役員に向けて、本連盟の活動や各団体の活動の情報共有を図るために、プッシュ型の「JAAF News」メールマガジンをスタートし、毎月配信した。内容は、役員及び専門委員長からのメッセージ、各加盟・協力団体やテーマ別(「SDGs」や「ダイバーシティ&インクルージョン」等)の取組や情報、中長期計画や各種お知らせを掲載している。2025 年度は新たに登録会員、コアファン向けのプッシュ型メールマガジンを開始する。
- ・パリ 2024 オリンピック競技大会での選手や関係者への誹謗中傷に対して、選手が安心して競技に取り組める環境を作るために、スピード感をもって、メッセージを発信した。2025 年に東京で開催される世界陸上競技選手権大会に向けて、安全安心プロジェクト、強化委員会を中心に状況の把握や他団体との連動を進め、日本オリンピック委員会(JOC)の協力を得て、2025 年 4 月に開催する強化対象競技者・専任コーチカンファレンスで誹謗中傷を中心としたスポーツ・インテグリティ研修を予定している。

(2) RIKUJO JAPAN

「JAAF VISION 2017」及び「JAAF REFORM－中長期計画－」に掲げたビジョンの実現に向けて、日本陸連の枠を超え、陸上界全体、さらにはスポーツ界全体が共有できる未来像を描くことを目指し、事業戦略チームを中心に「RIKUJO JAPAN」というプロジェクトを立ち上げた。単なる競技団体のビジョンではなく、「陸上でスポーツ界、そしてニッポンを変えていく」というスローガンのもと、競技者・関係者・企業・自治体・ファンといった多様な立場の人々が「賛同者」や「主体者」としてこのプロジェクトに関わることを目指している。

2024年度は、その第一歩として「場と機会を増やす」ことに重点を置き、選手発のイベントや商業施設での体験型企画、他競技とのコラボレーションなど、多様なアクションを展開。全国各地で同じ想いを持って活動する人々の取り組みを可視化・発信し、共感と参加の輪を広げることに取り組んだ。これらの活動には、子どもから高齢者まで幅広い年代の方々が、日ごろの運動習慣の有無にかかわらず参加し、多くの人が集まる場に陸上があることで、「走る・跳ぶ・投げる・歩く」といった基本動作に自然と触れる機会が生まれた。

さらに、2025年5月11日（日）には、東京・行幸通りで新しいコンセプトイベント「SPEED STAR 30m Dash Challenge」の開催を予定。世代・競技の垣根を越え、「走ること」そのものの魅力に触れられる機会を創出する。RIKUJO JAPANは、陸上がもつ価値を社会に開き、地域や企業、個人が関わるムーブメントとして拡大していくことを目指して、今後も活動を深化させていく。

また、RIKUJO JAPANの理念を体現する新たな協賛枠として、「Social Innovation Family」を創設。社会課題の解決を志向する企業・団体と陸上界をつなぐパートナーシップの可能性を広げ、社会的意義を備えた活動の推進を図っている。

1) RIKUJO JAPAN のコンセプト

- ・みんながワクワクする未来を描く
- ・陸連のビジョンから、陸上界・スポーツ界のビジョンへ
- ・国や社会にとっての価値の大きさを伝えていく
- ・賛同者を巻き込み、一人一人をプロジェクトの主体者に

2) 2024年度のアクション

① 賛同者・主人公を増やす広報戦略

本連盟のウェブサイトの特設ページを作成し、アスリートや陸上に関わる人たちの対談、イベントレポート、イベントでの写真ギャラリーを掲載した。また SNS を通じ、RIKUJOJAPAN の活動の様子を発信した。

- ・対談記事 2 本
- ・イベントレポート 15 本公開
- ・写真 327 枚掲載
- ・#RIKUJOJAPAN
X 284 投稿／Instagram 130 投稿

※2025年5月15日現在

② あらゆる陸上イベントで JAAF VISION を共有し合う

アスリートが企画するイベントでの連携や商業施設などでの体験イベント、祭りとの連携など、理念を共有できるパートナーとの活動を増やした。アスリートとしては、サ

ニブラウン アブデル ハキーム選手が企画する「DAWN GAMES」や、衛藤昂選手が企画する「JUMP FESTIVAL」とも連携した。

今後も、全国各地で開催されるイベントや企画を広く知っていただくことにより、子どもからシニア世代まで年齢を問わず、また運動経験の有無にかかわらず、すべての方々に陸上を通じてスポーツに親しむ機会を提供したい。

2024年度のイベント連携及び、イベントを取り上げレポートとしてサイトに掲載した内容は下記の通り。

開催日	掲載形式	イベント名
4月21日(日)	レポート掲載	キッズ50m タイムトライアル in 兵庫リレーカーニバル
5月19日(日)	レポート掲載 動画掲載	第1回 RIKUJOJAPAN スペシャル対談 ・北口 榛花 (JAL) ・サニブラウン アブデル ハキーム (東レ) ・橋岡 優輝 (富士通)
6月9日(日)	レポート掲載	「DAWN GAMES」東日本予選
7月17日(水)	レポート掲載 動画掲載	第2回 RIKUJOJAPAN スペシャル対談 ・甲田 知子 (アシックス) ・有森 裕子 (日本陸連副会長) ・田崎 博道 (日本陸連専務理事)
8月24日(日)	レポート掲載	THE GAME
9月4日(水)	レポート掲載	RIKUJOJAPAN インタビュー (福島千里)
9月23日(月・祝)	レポート掲載	EDORIKU パラ陸上教室
10月13日(日)	レポート掲載	DAWN GAMES 決勝大会
10月13日(日)・ 14日(月・祝)	イベント協力 レポート掲載	10m チャレンジ in 横須賀モアーズシティ
10月27日(日)	レポート掲載	日本記録挑戦会兼住友電工杯 住友電工陸上フェスタ 2024
11月3日(日)	イベント協力 レポート掲載	JUMP FESTIVAL in KOBE 2024
11月4日(月・祝)	イベント協力 レポート掲載	浜松町ハーベストフェスタ 浜祭 2024
12月7日(日)	イベント協力 レポート掲載	TSUTSUGO SPORTS ACADEMY×RIKUJO JAPAN クリニック
1月19日(日)	レポート掲載	TOKYO FORWARD 2025 子供スポーツ体験教室
2月11日(火・祝)	レポート掲載	ふれあいスポーツフェス町田
3月29日(日)	レポート掲載	メイスンワーク ストリートボウタカ at 池袋

③ RIKUJOJAPAN サロンの開催

パートナー企業、メディア、アスリート、事務局など、立場を越えて陸上・スポーツを支える人々がつながる交流の場「RIKUJO JAPAN サロン」を開催。2024年度は1回実施し、分野を越えた対話から新たなアイデアと連携の種が生まれた。2025年度は年4回の開催を予定し、共創による価値創造をさらに加速させていく。

(3) ファンコミュニケーション

ファンクラブを 2025 年 2 月 21 日（火）に開設した。ファンクラブの目的は、2026 年以降の日本選手権、ゴールデングランプリ等での観客を増やすことにある。どこで開催しても必ず来場してくれるコアファン（熱心に応援するファン）を把握しコミュニケーションを取り、確実に早期にチケットを購入してもらうことで、彼らがインフルエンサーとなって情報が拡散され、さらなる来場者増加につながることを期待している。ファンクラブの特典は、来場者アンケートからコアファンの要望として出された、先行発売や先行入場とした。

(4) プロジェクト事業

本連盟の喫緊の課題に取り組む「東京 2025 世界陸上プロジェクト」、「学校部活動の地域移行プロジェクト」、「公認競技場・競走路・競歩路プロジェクト（のちに環境整備プロジェクトに改称）」の 3 つの新規プロジェクトを立ち上げた。「東京 2025 世界陸上プロジェクト」では「世界陸上が一過性のイベントとならないための施策」及び「世界陸上を契機に陸上の人気や認知度を上げる」、「学校部活動の地域移行プロジェクト」では「中高生が陸上をする場所として最適（理想的）な環境を考える」、「公認競技場・競走路・競歩路プロジェクト」では「陸上競技場が必要とされる施設になる方法を検討する」ことをプロジェクトの目的として、取り組んでいる。

(5) Well-being Athletes & Human Program

陸上界におけるアスリートの健康問題に向き合い、課題解決を進めることにより、アスリートが現在も、そして未来もウェルビーイングな状態となり、生涯を通じ、それぞれのライフステージで陸上を楽しむことを目指すプロジェクトを 2023 年度、立ち上げた。2024 年度も引き続き科学委員会、医事委員会、アスリート委員会の連携でプログラムを推進した。

2023 年度に作成したリーフレット「アスリートの健康を守ろう！～ウェルビーイングのためにできること～」は、発達発育期にあるアスリートの健康を守るため、その時期のアスリートのみならず、その指導者や保護者、関係者に周知徹底が必要な内容であるため、ジュニアカテゴリーの競技会においても配布した。今後はより広く情報を周知徹底していくための活動内容について検討が必要である。

リーフレットの配布に続き、アスリート、指導者、保護者、その他関係者に向けた啓発活動を実施した。実施した事業は以下の通り。

①プロフェッショナルとともに考える「女性アスリート×ウェルビーイング」

日時：2025 年 1 月 11 日（土）

会場：京都リサーチパーク

登壇者：有森裕子氏、弘山勉氏、小林祐梨子氏、須永美歌子氏

対象者：都道府県女子駅伝参加選手のチーム関係者（指導者等）や保護者、
陸上競技指導者

②U20 オリンピック育成競技者研修合宿

日時：2025 年 1 月 14 日（火）

会場：味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）

登壇者：須永美歌子氏、戸邊直人選手、寺田明日香選手

対象者：U20 オリンピック育成競技者、オリンピック育成競技者の指導者、

強化委員会強化育成部スタッフ

③ウェルビーイングとは？「指導者と考えるところとからだの健康」

日時：2025年3月20日（木・祝）

会場：オンライン

※一部指導者資格の更新研修として実施

登壇者：有森裕子氏、須永美歌子氏、塚原由佳氏、浜野純氏、山本宏明氏、
田中ウルヴェ京氏、中村明彦氏

対象者：JAAF 公認コーチ資格有資格者

（公認コーチ・公認ジュニアコーチ・公認スタートコーチ）、
陸上競技指導者（コーチ資格未保有者）、陸上競技関係者等

（6）拠点化設置事業

現在、日本オリンピック委員会（JOC）が設置・指定する「ナショナルトレーニングセンター（NTC）」や「NTC 競技別強化拠点施設」、「JOC 認定競技別強化センター」を主な強化拠点とし、その他種目や時期にあわせ、環境が整った各地の施設を活用して、日本代表及び強化指定選手等の強化に取り組んでいる。「JAAF VISION 2017」及び「JAAF REFORM—中長期計画—」に掲げる国際競技力向上の実現に向け、日本代表選手及び日本のトップアスリートが、より多様な環境で、目的に適したトレーニングを行うことができるよう、陸上競技における強化拠点の設置を開始した。

この拠点は本連盟の認定施設として、陸上選手の育成・強化のみならず、指導者養成やその他陸上の普及活動における地域拠点として位置付けられ、地域に根ざした拠点の整備は、施設及び地域の活性化、そして日本全体の競技力向上とウェルネス陸上の実現に繋がり、アスレティックファミリーの拡大に貢献できるものとする。

2024年度は以下の3拠点から申請があり、審査会議を経て認定となった。

※認定日は2025年4月1日付けとする。

- ①蔵王坊平アスリートヴィレッジ（山形）
- ②GMOアスリートパーク湯の丸トラック（長野）
- ③ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅（鹿児島）

（7）国際組織との連携

2025年9月にはいよいよ世界陸上競技選手権大会が東京で開催されることになり、グローバル社会において日本への注目度は高まっている。本連盟はWAとアジアナアスレティックス（AA）のトップ組織である理事会や各委員会に人材を派遣し、様々な議論に大きく貢献した。世界のスポーツを取り巻く環境は日々変革し、新たな課題も提起されている。陸上の魅力的な発信はもちろんのこと、サステナビリティ戦略、セーフガーディングポリシー、ジェンダーダイバースアスリートの取扱い等に関する制度化とその運用は喫緊の課題として取り組まれている。陸上界の発展には若者への見せ方や子どもの参加が重要な課題で、世界ではデータを元に分析を行って今後の方針を議論している。本連盟は、WAやAAの単なる一つの加盟団体にとどまらず、両団体と共に世界の陸上界を牽引していくことを目指し、各組織の中で重要なポストを担いながら、貢献している。日本がポストを担っているWA/AAのカウンシル会議や各委員会は対面での年3回の会議に加え、頻繁にオンライン会議が行われており、これらの機会を通じて役員や委員のネットワークが構築され、情報が駆使されている。世界が目指す陸上界の改革に取り残されない様に情報をいち早くキャッチする事は必要不可欠であり、それらをどの様に日本のシステムにアライン

させるかを議論するために国際戦略会議が開催されている。WA の長期戦略計画（World Strategic Plan、2022 年～2030 年）の中の 67 のアクションプランには、各国陸連が遂行する課題も挙げられており、日本はそれらを順次達成しながら、世界の流れ、進化、変革に遅れを取らない様に、日本陸上界全体として国際力の底上げを推進している。

（８）JAAF インフォメーションセッションの開催

陸上競技界を牽引する役割を果たすため、本連盟加盟団体・協力団体等とのコミュニケーションの充実化を図ることを目的として、オンラインでの情報共有を推進する JAAF インフォメーションセッションを 2020 年 8 月より開始し、2024 年度は以下の通り、2 回開催した。

開催日	テーマ
2024 年 11 月 11 日（月）	RIKUJO JAPAN の概要説明
2025 年 3 月 5 日（水）	100 周年事業の全体像、RIKUJO JAPAN の進捗

（９）組織文化や組織基盤の変革

１）ダイバーシティ＆インクルージョンの推進

本連盟では、「人の多様性を認め、受け入れて活かすこと」を意味するダイバーシティ＆インクルージョンを重視し、組織内におけるダイバーシティ＆インクルージョンはもとより、国内を統轄・代表する団体として、日本陸上界を持続的に発展させていくための施策のすべてにおいて、ダイバーシティ＆インクルージョンの精神を不可欠なものと捉え、その推進に取り組んでいる。

関係者個々の知識や認識を深めるため、2023 年度から実施している研修活動は、2024 年度は、「企業における DEI の取組と課題」を初回、「女子競技の参加資格に関する WA 規定を考える」を二回目の研修テーマとし、コンプライアンスへの理解がダイバーシティ＆インクルージョンの実現と切り離せない関係性にあることから、より内部研修の充実を図るべく、本研修と組み合わせて、「役職員向けコンプライアンス研修」を開催し、計 3 回実施した。その模様は、本連盟ウェブサイト内に制作した特設サイトで紹介している。

また、この環境の実現のためには、陸上に携わるすべての人が、お互いの人権を常に意識・尊重すること（セーフガーディング）が重要であるという考えのもと、2024 年 12 月から、まずは本連盟役職員を対象として WA 提供のセーフガーディングに関する e ラーニングの受講を開始し、徐々に対象者を広げている。

２）リスク管理体制整備計画の促進

第 90 回理事会（2024 年 3 月 26 日開催）において承認されたリスク管理体制整備計画に基づき、本連盟に発生するあらゆるリスクについて、総合型リスク管理の考え方のもとに、リスク管理体制の整備を図った。諸規程の制定及び改正を検討し、いくつかの規程を理事会に上程した。また、2025 年度から導入が出来るよう、試験的に、簡易な内部監査を実施した。引き続き、組織全体の視点からリスクを統合的、包括的、戦略的に把握及び評価、最適化し、時代の変化をとらえ、本連盟組織の価値最大化を図る。

３）法務、コンプライアンスに関する事項

本連盟加盟団体のガバナンス強化・充実及びコンプライアンスの徹底、スポーツ・インテグリティの向上を目指して、加盟団体規程制定の検討を始めている。制定にあたっては、加盟団体向けのインフォメーションセッションを行い、制定に係る説明会を開催するとともに、意見聴取を実施する。2025 年度での制定を予定している。

なお、引き続き規程等の整備を進めていくが、代表理事・業務執行理事と専門委員会の関係や事務局内における職務権限等について、2025 年度に整備する。

本連盟の登録会員による、陸上競技に関連したハラスメント・暴力行為等に関する相談に対応するため本連盟ウェブサイト内にハラスメント・暴力行為等相談窓口を設置し、相談業務を委託している日本スポーツ法支援・研究センターとの連携において、事案の対処を行った。

4) スポーツ団体ガバナンスコードの遵守

2019 年 6 月 10 日にスポーツ庁よりスポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞が発表され、2024 年度も引き続き、13 の原則からなるコードの遵守に向けて活動を行った。毎年度義務付けられている、スポーツ団体ガバナンスコードの 13 の原則に対する 43 の審査項目の遵守状況の自己説明及び公表を、2024 年 10 月に本連盟ウェブサイトにて行った。

(10) 財政基盤の充実

- ・協賛金収益への高い依存度を解消するために、2021 年度から登録料（会費）を設定し、新たな収益源とした。徴収を始めた当初から 2024 年度まで、登録料受入収益は 2.5 億円を保っており、本連盟収益の大きな柱となっている。
- ・2021 年に創設した「ジャパンマラソンチャンピオンシップ (JMC) シリーズ」は、加盟競技会から加盟料を徴収している。JMC シリーズは、競技会の水準等により最上位のグレード S (GS) からグレード 1 (G1)、グレード 2 (G2)、グレード 3 (G3) までの 4 つのグレードに分かれており、グレードにより加盟金額を定めている。2024 年度の加盟競技会は、10 競技会であった。
- ・協賛金を除いた競技会の主な収益は、チケット売上、エントリー料である。チケット売上をあげるため、競技場に足を運んでもらう施策として、アスリート交流付きチケットを販売することで、アスレティックファミリーやこれまで陸上やアスリートに直接触れる機会が少ない方々との交流を図った。観客数を増やして収益に繋げるとともに、陸上の価値を創造する。
- ・「JAAF VISION 2017」及び「JAAF REFORM ー中長期計画ー」で掲げた理念実現のための具体的な事業戦略、及びパートナー企業との共創のための企画立案を行うとともに、マーケティング機能を強化する事業戦略チームの活動を本格化した。協賛カテゴリーの見直しや企業との新たなパートナーシップの枠組みの再設計を図った。

(11) 復興支援

2024 年（2024 年 1 月～3 月を含む）計 13 競技会で選手と連携し、募金活動を行い、総額：1,963,747 円を日本赤十字社「令和 6 年能登半島地震災害義援金」に寄付した。また、多くの選手にご協力いただき、能登半島復興支援チャリティーオークションを 2 回実施した。オークションの収益（5,825,650 円）は、日本赤十字社に「令和 6 年能登半島地震災害義援金」として寄付をした。またアスレティックス・アワード 2024 では、来場者への記念品に輪島箸を贈呈した。2025 年度も支援を継続していく。

(12) 東京 2025 世界陸上競技選手権大会開催準備

2025 年 9 月 13 日（土）～9 月 21 日（日）に東京で開催される東京 2025 世界陸上競技選手権大会に向けて、大会の主催者である WA、大会運営組織である公益財団法人東京 2025 世界陸上財団、東京都等と連携して、準備・運営や気運醸成等を推進した。

東京 2025 世界陸上財団においては、本連盟の尾縣貢会長、風間明副会長（2024 年 6 月まで）、田崎博道専務理事（2024 年 6 月から）、來田享子常務理事が理事を担い、重要事項の協議・決定にあたった。特に尾縣会長は世界陸上財団でも会長を務め、大会の準備・運営を先導した。

また、本連盟の事務局職員 7 名（うち 5 名は兼務出向）が世界陸上財団の事務局に出向し、関係機関との調整、競技運営や医療の分野をはじめとした各分野の準備・運営の実務に携わった。

大会の周知や気運醸成、2024 年 8 月に開始されたチケット販売の促進、競技役員・競技運営コラボレーターの派遣等においては、世界陸上財団と連携し、本連盟の加盟団体・協力団体や登録会員にも協力を呼び掛ける等、さまざまな方策に取り組んだ。

2025 年度は大会の開催年となることから、大会が成功し、さらに日本における陸上の普及・発展にもつながるよう、開催国の競技団体として一層積極的に大会の準備・運営に関わっていく。

以上

第 14 期 事業報告 附属明細書
(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

第 14 期事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に 規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないので、附属明細書を作成しない。

以上

貸借対照表

2025年 3月31日現在

公益財団法人 日本陸上競技連盟

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	819,231,047	827,148,039	△ 7,916,992
未 収 入 金	287,190,362	259,506,342	27,684,020
立 替 金	2,272,910	1,000	2,271,910
仮 払 金	10,709,432	27,186,810	△ 16,477,378
前 払 費 用	18,880,744	10,022,977	8,857,767
貯 蔵 品	3,687,300	3,934,586	△ 247,286
貸 倒 引 当 金	△ 1,736,779	△ 1,557,044	△ 179,735
流動資産合計	1,140,235,016	1,126,242,710	13,992,306
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基 本 財 産 引 当 預 金	497,700,000	497,300,000	400,000
基 本 財 産 引 当 有 価 証 券	702,300,000	702,700,000	△ 400,000
基本財産合計	1,200,000,000	1,200,000,000	0
(2) 特定資産			
退 職 給 付 引 当 預 金	145,020,947	136,477,469	8,543,478
国 際 競 技 会 開 催 引 当 預 金	450,000,000	349,000,000	101,000,000
人 材 育 成 事 業 引 当 預 金	30,000,000	0	30,000,000
特定資産合計	625,020,947	485,477,469	139,543,478
(3) その他固定資産			
建 物 付 属 設 備	23,979,590	29,350,457	△ 5,370,867
什 器 備 品	14,278,825	9,360,402	4,918,423
差 入 保 証 金	10,458,000	10,458,000	0
ソ フ ト ウ ェ ア	5,045,834	7,142,501	△ 2,096,667
その他固定資産合計	53,762,249	56,311,360	△ 2,549,111
固定資産合計	1,878,783,196	1,741,788,829	136,994,367
資産合計	3,019,018,212	2,868,031,539	150,986,673
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	145,095,604	163,156,333	△ 18,060,729
預 り 金	2,301,468	4,789,673	△ 2,488,205
仮 受 金	60,339	3,154,704	△ 3,094,365
賞 与 引 当 金	19,280,067	18,928,150	351,917
未 払 消 費 税 等	5,623,500	20,225,400	△ 14,601,900
流動負債合計	172,360,978	210,254,260	△ 37,893,282
2. 固定負債			
退 職 給 付 引 当 金	145,020,947	136,477,469	8,543,478
固定負債合計	145,020,947	136,477,469	8,543,478
負債合計	317,381,925	346,731,729	△ 29,349,804
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0

科 目	当年度	前年度	増 減
2. 一般正味財産	2,701,636,287	2,521,299,810	180,336,477
（うち基本財産への充当額）	(1,200,000,000)	(1,200,000,000)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(480,000,000)	(349,000,000)	(131,000,000)
正味財産合計	2,701,636,287	2,521,299,810	180,336,477
負債及び正味財産合計	3,019,018,212	2,868,031,539	150,986,673

貸借対照表内訳表

2025年 3月31日現在

公益財団法人 日本陸上競技連盟

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	787,247,126	31,983,921	0	819,231,047
現 金	0	336,973	0	336,973
普 通 預 金	787,247,126	31,646,948	0	818,894,074
未 収 入 金	286,807,852	382,510	0	287,190,362
立 替 金	2,269,490	3,420	0	2,272,910
仮 払 金	10,709,432	0	0	10,709,432
前 払 費 用	14,409,382	4,471,362	0	18,880,744
貯 蔵 品	3,687,300	0	0	3,687,300
法 人 会 計 勘 定	9,364,371	0	△ 9,364,371	0
貸 倒 引 当 金	△ 1,736,779	0	0	△ 1,736,779
流動資産合計	1,112,758,174	36,841,213	△ 9,364,371	1,140,235,016
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
基 本 財 産 引 当 預 金	248,850,000	248,850,000	0	497,700,000
基 本 財 産 引 当 有 価 証 券	351,150,000	351,150,000	0	702,300,000
基本財産合計	600,000,000	600,000,000	0	1,200,000,000
(2) 特定資産				
退 職 給 付 引 当 預 金	0	145,020,947	0	145,020,947
国 際 競 技 会 開 催 引 当 預 金	450,000,000	0	0	450,000,000
人 材 育 成 事 業 引 当 預 金	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産合計	480,000,000	145,020,947	0	625,020,947
(3) その他固定資産				
建 物 付 属 設 備	23,979,590	0	0	23,979,590
什 器 備 品	14,173,581	105,244	0	14,278,825
差 入 保 証 金	0	10,458,000	0	10,458,000
ソ フ ト ウ ェ ア	5,045,834	0	0	5,045,834
その他固定資産合計	43,199,005	10,563,244	0	53,762,249
固定資産合計	1,123,199,005	755,584,191	0	1,878,783,196
資産合計	2,235,957,179	792,425,404	△ 9,364,371	3,019,018,212
II 負債の部				
1. 流動負債				
未 払 金	135,769,074	9,326,530	0	145,095,604
預 り 金	462,329	1,839,139	0	2,301,468
仮 受 金	60,339	0	0	60,339
賞 与 引 当 金	0	19,280,067	0	19,280,067
未 払 消 費 税 等	0	5,623,500	0	5,623,500
公 益 会 計 勘 定	0	9,364,371	△ 9,364,371	0
流動負債合計	136,291,742	45,433,607	△ 9,364,371	172,360,978
2. 固定負債				
退 職 給 付 引 当 金	0	145,020,947	0	145,020,947
固定負債合計	0	145,020,947	0	145,020,947
負債合計	136,291,742	190,454,554	△ 9,364,371	317,381,925
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
指定正味財産合計	0	0	0	0
2. 一般正味財産				
(うち基本財産への充当額)	(600,000,000)	(600,000,000)	(0)	(1,200,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(480,000,000)	(0)	(0)	(480,000,000)
正味財産合計	2,099,665,437	601,970,850	0	2,701,636,287
負債及び正味財産合計	2,235,957,179	792,425,404	△ 9,364,371	3,019,018,212

正味財産増減計算書

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

公益財団法人 日本陸上競技連盟

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基 本 財 産 運 用 収 益	[8,196,774]	[8,071,955]	[124,819]
登 録 料 受 入 収 益	[254,917,000]	[255,439,700]	[△ 522,700]
加 盟 金 受 入 収 益	[4,700,000]	[4,700,000]	[0]
受 取 寄 付 金	[14,500,000]	[17,497,000]	[△ 2,997,000]
受 取 委 託 金 ・ 助 成 金	[205,974,089]	[174,454,431]	[31,519,658]
J O C 受 取 委 託 金	117,318,089	112,572,431	4,745,658
ス ポ ー ツ 振 興 基 金 受 取 助 成 金	10,800,000	12,000,000	△ 1,200,000
ス ポ ー ツ く じ 受 取 助 成 金	77,856,000	49,882,000	27,974,000
事 業 収 益	[1,326,441,769]	[1,308,771,891]	[17,669,878]
受 取 協 賛 金	884,877,274	925,435,560	△ 40,558,286
広 告 料 収 益	209,091	209,091	0
参 加 料 収 益	64,559,376	60,262,167	4,297,209
入 場 料 収 益	108,601,745	78,010,251	30,591,494
プ ロ グ ラ ム 売 上 収 益	2,060,001	507,273	1,552,728
放 送 権 料 収 益	65,000,000	50,000,000	15,000,000
受 取 助 成 金	76,160,732	35,329,004	40,831,728
販 賦 収 益	6,267,750	5,174,050	1,093,700
肖 像 権 料 収 益	600,000	600,000	0
認 定 料 収 益	91,000,000	137,000,000	△ 46,000,000
そ の 他 の 収 益	27,105,800	16,244,495	10,861,305
そ の 他 事 業 収 益	[30,806,048]	[33,775,178]	[△ 2,969,130]
器 具 検 定 料 収 益	4,681,270	6,540,430	△ 1,859,160
競 技 場 公 認 料 収 益	18,103,000	18,305,000	△ 202,000
後 援 名 義 使 用 料 収 益	4,650,000	5,070,000	△ 420,000
印 税 収 益	1,124,648	1,607,173	△ 482,525
販 売 手 数 料 収 益	247,130	252,575	△ 5,445
陸 上 マ ガ ジ ン 編 集 料 収 益	2,000,000	2,000,000	0
雑 収 益	[7,675,000]	[9,832,711]	[△ 2,157,711]
経常収益計	1,853,210,680	1,812,542,866	40,667,814
(2) 経常費用			
事 業 費	[1,536,474,680]	[1,581,476,886]	[△ 45,002,206]
給 与 ・ 手 当	156,253,702	173,109,496	△ 16,855,794
賞 与	36,740,821	42,999,875	△ 6,259,054
賞 与 引 当 金 繰 入 額	17,606,557	17,285,187	321,370
退 職 給 付 引 当 金 繰 入 額	22,800,666	13,426,765	9,373,901
法 定 福 利 費	35,712,711	38,852,862	△ 3,140,151
減 価 償 却 費	9,161,311	29,751,404	△ 20,590,093
水 道 光 熱 費	1,224,849	1,076,141	148,708
旅 費 交 通 費	167,864,690	157,729,984	10,134,706
旅 費 交 通 費 (国 際)	120,083,709	175,348,850	△ 55,265,141

科 目					当年度	前年度	増 減	
諸		謝		金	16,673,028	15,246,012	1,427,016	
諸	謝	金	(国 際)		2,958,238	3,187,790	△ 229,552	
通		信		費	(4,120,065)	(5,143,100)	(△ 1,023,035)	
電		話	料	金	33,047	100,007	△ 66,960	
郵		便	料	金	349,816	790,943	△ 441,127	
そ		の		他	3,737,202	4,252,150	△ 514,948	
荷	造	配	達	費	4,416,516	4,603,157	△ 186,641	
印	刷	製	本	費	18,992,728	24,241,312	△ 5,248,584	
賃		借		料	99,725,628	107,492,084	△ 7,766,456	
損	害	保	険	料	6,247,868	9,023,016	△ 2,775,148	
会		議		費	883,436	907,288	△ 23,852	
交		際		費	1,510,059	1,105,366	404,693	
支	払	手	数	料	(14,278,927)	(19,958,163)	(△ 5,679,236)	
銀	行	支	払	手	1,179,136	1,388,026	△ 208,890	
そ		の		他	13,099,791	18,570,137	△ 5,470,346	
業	務	委	託	料	271,454,612	250,608,425	20,846,187	
備	消		品	費	42,505,473	40,066,246	2,439,227	
新	聞	図	書	費	1,513,246	2,025,508	△ 512,262	
租	税		公	課	1,120,550	1,275,900	△ 155,350	
大	学	補	助	金	0	200,000	△ 200,000	
中	学	補	助	金	5,500,000	4,000,000	1,500,000	
地	域	支	援	金	28,850,000	28,600,000	250,000	
強		化		費	(210,488,029)	(183,443,769)	(27,044,260)	
旅	費		交	通	41,530,837	27,410,887	14,119,950	
旅	費	交	通	費	(国 際)	60,839,760	37,112,248	23,727,512
諸		謝		金	3,616,523	3,004,591	611,932	
諸	謝	金	(国 際)		823,527	818,628	4,899	
通		信		費	929,285	267,443	661,842	
荷	造	配	達	費	227,935	206,708	21,227	
賃		借		料	3,097,323	3,578,604	△ 481,281	
損	害	保	険	料	500	0	500	
交		際		費	51,564	20,874	30,690	
支	払	手	数	料	460,722	289,862	170,860	
業	務	委	託	料	13,040,005	7,689,940	5,350,065	
備	消		品	費	126,776	485,405	△ 358,629	
雑				費	44,575	115,643	△ 71,068	
雑	費	(国 際)			19,908	10,959	8,949	
強		化		費	75,928,789	90,310,150	△ 14,381,361	
報		奨		金	9,750,000	12,121,827	△ 2,371,827	
会	場	設	営	・ 警 備	147,941,552	134,641,021	13,300,531	
主		管		料	16,909,094	17,800,003	△ 890,909	
広	告	宣	伝	費	5,460,508	13,250,270	△ 7,789,762	
競	技	会	等	費 用 負 担	59,208,178	61,181,085	△ 1,972,907	

科 目	当年度	前年度	増 減
仕 入 商 品 代	2,747,286	2,441,694	305,592
雑 費	4,168,287	944,618	3,223,669
雑 費 (国 際)	1,352,356	510,495	841,861
管 理 費	[136,399,523]	[130,442,618]	[5,956,905]
役 員 報 酬	18,600,000	17,801,400	798,600
給 与 ・ 手 当	14,851,973	16,454,122	△ 1,602,149
賞 与	3,492,229	4,087,154	△ 594,925
賞 与 引 当 金 繰 入 額	1,673,510	1,642,963	30,547
退 職 給 付 引 当 金 繰 入 額	2,167,212	1,276,219	890,993
法 定 福 利 費	3,394,507	3,692,979	△ 298,472
福 利 厚 生 費	1,576,230	1,936,662	△ 360,432
減 価 償 却 費	1,756,014	2,032,837	△ 276,823
水 道 光 熱 費	116,422	102,288	14,134
旅 費 交 通 費	5,792,054	7,840,219	△ 2,048,165
諸 謝 金	760,369	880,367	△ 119,998
通 信 費	(7,762,224)	(8,508,436)	(△ 746,212)
電 話 料 金	3,132,866	3,542,664	△ 409,798
郵 便 料 金	683,570	1,045,261	△ 361,691
そ の 他	3,945,788	3,920,511	25,277
荷 造 配 達 費	2,308,986	3,025,526	△ 716,540
印 刷 製 本 費	15,100	30,800	△ 15,700
賃 借 料	5,022,114	5,475,137	△ 453,023
損 害 保 険 料	284,633	576,463	△ 291,830
会 議 費	746,513	823,632	△ 77,119
交 際 費	895,943	1,711,160	△ 815,217
支 払 手 数 料	(15,864,203)	(17,968,463)	(△ 2,104,260)
銀 行 支 払 手 数 料	1,151,890	1,263,162	△ 111,272
派 遣 費	4,055,155	8,687,833	△ 4,632,678
そ の 他	10,657,158	8,017,468	2,639,690
業 務 委 託 料	7,234,518	5,855,901	1,378,617
備 消 品 費	3,664,084	3,951,741	△ 287,657
新 聞 図 書 費	67,610	65,796	1,814
租 税 公 課	48,400	12,800	35,600
教 育 研 修 費	1,335,000	337,304	997,696
加 盟 料	531,266	526,506	4,760
諸 会 費	159,617	150,453	9,164
雑 費	36,278,792	23,675,290	12,603,502
経常費用計	1,672,874,203	1,711,919,504	△ 39,045,301
評価損益等調整前当期経常増減額	180,336,477	100,623,362	79,713,115
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	180,336,477	100,623,362	79,713,115
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			

科 目	当年度	前年度	増 減
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
2 0 2 5 世 界 陸 上 財 団 拠 出 金	[0]	[990,600,000]	[△ 990,600,000]
固 定 資 産 廃 棄 費	[0]	[29,100,000]	[△ 29,100,000]
経常外費用計	0	1,019,700,000	△ 1,019,700,000
当期経常外増減額	0	△ 1,019,700,000	1,019,700,000
当期一般正味財産増減額	180,336,477	△ 919,076,638	1,099,413,115
一般正味財産期首残高	2,521,299,810	3,440,376,448	△ 919,076,638
一般正味財産期末残高	2,701,636,287	2,521,299,810	180,336,477
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	2,701,636,287	2,521,299,810	180,336,477

正味財産増減計算書内訳表

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

公益財団法人 日本陸上競技連盟

(単位: 円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用収益	[4,098,387]	[4,098,387]	[0]	[8,196,774]
登録料受入収益	[254,917,000]	[0]	[0]	[254,917,000]
加盟金受入収益	[4,700,000]	[0]	[0]	[4,700,000]
受取寄付金	[14,500,000]	[0]	[0]	[14,500,000]
受取委託金・助成金	[205,974,089]	[0]	[0]	[205,974,089]
J O C受取委託金	117,318,089	0	0	117,318,089
スポーツ振興基金受取助成金	10,800,000	0	0	10,800,000
スポーツくじ受取助成金	77,856,000	0	0	77,856,000
事業収益	[1,194,208,604]	[132,233,165]	[0]	[1,326,441,769]
受取協賛金	752,644,109	132,233,165	0	884,877,274
広告料収益	209,091	0	0	209,091
参加料収益	64,559,376	0	0	64,559,376
入場料収益	108,601,745	0	0	108,601,745
プログラム売上収益	2,060,001	0	0	2,060,001
放送権料収益	65,000,000	0	0	65,000,000
受取助成金	76,160,732	0	0	76,160,732
販賦収益	6,267,750	0	0	6,267,750
肖像権料収益	600,000	0	0	600,000
認定料収益	91,000,000	0	0	91,000,000
その他の収益	27,105,800	0	0	27,105,800
その他の事業収益	[30,806,048]	[0]	[0]	[30,806,048]
器具検定料収益	4,681,270	0	0	4,681,270
競技場公認料収益	18,103,000	0	0	18,103,000
後援名義使用料収益	4,650,000	0	0	4,650,000
印税収益	1,124,648	0	0	1,124,648
販売手数料収益	247,130	0	0	247,130
陸上マガジン編集料収益	2,000,000	0	0	2,000,000
雑収益	[7,607,029]	[67,971]	[0]	[7,675,000]
経常収益計	1,716,811,157	136,399,523	0	1,853,210,680
(2) 経常費用				
事業費	[1,536,474,680]	[0]	[0]	[1,536,474,680]
給与・手当	156,253,702	0	0	156,253,702
賞与	36,740,821	0	0	36,740,821
賞与引当金繰入額	17,606,557	0	0	17,606,557
退職給付引当金繰入額	22,800,666	0	0	22,800,666
法定福利費	35,712,711	0	0	35,712,711
減価償却費	9,161,311	0	0	9,161,311
水道光熱費	1,224,849	0	0	1,224,849
旅費交通費	167,864,690	0	0	167,864,690
旅費交通費(国際)	120,083,709	0	0	120,083,709
諸謝金	16,673,028	0	0	16,673,028
諸謝金(国際)	2,958,238	0	0	2,958,238
通信費	(4,120,065)	(0)	(0)	(4,120,065)
電話料金	33,047	0	0	33,047
郵便料金	349,816	0	0	349,816
その他の	3,737,202	0	0	3,737,202
荷造配達費	4,416,516	0	0	4,416,516
印刷製本費	18,992,728	0	0	18,992,728
貸借料	99,725,628	0	0	99,725,628
損害保険料	6,247,868	0	0	6,247,868
会議費	883,436	0	0	883,436
交際費	1,510,059	0	0	1,510,059
支払手数料	(14,278,927)	(0)	(0)	(14,278,927)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計
銀 行 支 払 手 数 料	1,179,136	0	0	1,179,136
そ の 他	13,099,791	0	0	13,099,791
業 務 委 託 料	271,454,612	0	0	271,454,612
備 消 品 費	42,505,473	0	0	42,505,473
新 開 図 書 費	1,513,246	0	0	1,513,246
租 税 公 課	1,120,550	0	0	1,120,550
中 学 補 助 金	5,500,000	0	0	5,500,000
地 域 支 援 金	28,850,000	0	0	28,850,000
強 化 費	(210,488,029)	(0)	(0)	(210,488,029)
旅 費 交 通 費	41,530,837	0	0	41,530,837
旅 費 交 通 費 (国 際)	60,839,760	0	0	60,839,760
諸 謝 金	3,616,523	0	0	3,616,523
諸 謝 金 (国 際)	823,527	0	0	823,527
通 信 費	929,285	0	0	929,285
荷 造 配 達 費	227,935	0	0	227,935
貸 借 料	3,097,323	0	0	3,097,323
損 害 保 険 料	500	0	0	500
交 際 費	51,564	0	0	51,564
支 払 手 数 料	460,722	0	0	460,722
業 務 委 託 料	13,040,005	0	0	13,040,005
備 消 品 費	126,776	0	0	126,776
雑 費	44,575	0	0	44,575
雑 費 (国 際)	19,908	0	0	19,908
強 化 費	75,928,789	0	0	75,928,789
報 奨 金	9,750,000	0	0	9,750,000
会 場 設 営 ・ 警 備 費	147,941,552	0	0	147,941,552
主 管 料	16,909,094	0	0	16,909,094
広 告 宣 伝 費	5,460,508	0	0	5,460,508
競 技 会 等 費 用 負 担 金	59,208,178	0	0	59,208,178
仕 入 商 品 代 費	2,747,286	0	0	2,747,286
雑 費	4,168,287	0	0	4,168,287
雑 費 (国 際)	1,352,356	0	0	1,352,356
管 理 費	[0]	[136,399,523]	[0]	[136,399,523]
役 員 報 酬	0	18,600,000	0	18,600,000
給 与 ・ 手 当	0	14,851,973	0	14,851,973
賞 与	0	3,492,229	0	3,492,229
賞 与 引 当 金 繰 入 額	0	1,673,510	0	1,673,510
退 職 給 付 引 当 金 繰 入 額	0	2,167,212	0	2,167,212
法 定 福 利 費	0	3,394,507	0	3,394,507
福 利 厚 生 費	0	1,576,230	0	1,576,230
減 価 償 却 費	0	1,756,014	0	1,756,014
水 道 光 熱 費	0	116,422	0	116,422
旅 費 交 通 費	0	5,792,054	0	5,792,054
諸 謝 金	0	760,369	0	760,369
通 信 費	(0)	(7,762,224)	(0)	(7,762,224)
電 話 料 金	0	3,132,866	0	3,132,866
郵 便 料 金	0	683,570	0	683,570
そ の 他	0	3,945,788	0	3,945,788
荷 造 配 達 費	0	2,308,986	0	2,308,986
印 刷 製 本 費	0	15,100	0	15,100
貸 借 料	0	5,022,114	0	5,022,114
損 害 保 険 料	0	284,633	0	284,633
会 議 費	0	746,513	0	746,513
交 際 費	0	895,943	0	895,943
支 払 手 数 料	(0)	(15,864,203)	(0)	(15,864,203)
銀 行 支 払 手 数 料	0	1,151,890	0	1,151,890

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計
派遣費	0	4,055,155	0	4,055,155
その他	0	10,657,158	0	10,657,158
業務委託料	0	7,234,518	0	7,234,518
備消耗品費	0	3,664,084	0	3,664,084
新開図書費	0	67,610	0	67,610
租税公課	0	48,400	0	48,400
教育研修費	0	1,335,000	0	1,335,000
加盟料	0	531,266	0	531,266
諸費	0	159,617	0	159,617
雑費	0	36,278,792	0	36,278,792
経常費用計	1,536,474,680	136,399,523	0	1,672,874,203
評価損益等調整前当期経常増減額	180,336,477	0	0	180,336,477
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	180,336,477	0	0	180,336,477
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	180,336,477	0	0	180,336,477
一般正味財産期首残高	1,919,328,960	601,970,850	0	2,521,299,810
一般正味財産期末残高	2,099,665,437	601,970,850	0	2,701,636,287
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	2,099,665,437	601,970,850	0	2,701,636,287

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - ①満期保有目的の債券……償却原価法(定額法)によっている。
 - ②その他の有価証券
 - ・時価のあるもの……移動平均法による時価法によっている。
 - ・時価のないもの……移動平均法による原価法によっている。
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品……最終仕入原価法によっている。
- (3) 固定資産の減価償却の方法

定額法によっている。
- (4) 引当金の計上基準
 - ①貸倒引当金…債権の貸倒による損失に備えるため、見込み額を計上している。
 - ②賞与引当金…職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上している。
 - ③退職給付引当金…職員の退職金支給に備えるため、自己都合による期末要支給額の100%を計上している。
- (5) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。
- (6) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっている。

2. 会計方針の変更

なし

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産引当預金	497,300,000	400,000	0	497,700,000
基本財産引当有価証券	702,700,000	0	400,000	702,300,000
小 計	1,200,000,000	400,000	400,000	1,200,000,000
特定資産				
退職給付引当預金	136,477,469	24,967,878	16,424,400	145,020,947
国際競技会開催引当預金	349,000,000	101,000,000		450,000,000
人材育成事業引当預金	0	30,000,000	0	30,000,000
小 計	485,477,469	155,967,878	16,424,400	625,020,947
合 計	1,685,477,469	156,367,878	16,824,400	1,825,020,947

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
基本財産引当預金	497,700,000	(0)	(497,700,000)	(0)
基本財産引当有価証券	702,300,000	(0)	(702,300,000)	(0)
小 計	1,200,000,000	(0)	(1,200,000,000)	(0)
特定資産				
退職給付引当預金	145,020,947	(0)	(0)	(145,020,947)
国際競技会開催引当預金	450,000,000	(0)	(450,000,000)	(0)
人材育成事業引当預金	30,000,000	(0)	(30,000,000)	(0)
小 計	625,020,947	(0)	(480,000,000)	(145,020,947)
合 計	1,825,020,947	(0)	(1,680,000,000)	(145,020,947)

5. 担保に供している資産

なし

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物付属設備	55,308,302	31,328,712	23,979,590
什器備品	45,862,225	31,583,400	14,278,825
ソフトウェア	40,041,178	34,995,344	5,045,834
合 計	141,211,705	97,907,456	43,304,249

7. 保証債務等の偶発債務

なし

8. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

銘 柄 等	帳簿価額	時 価	評価損益
第7回三井住友フィナンシャルグループ任意償還条項付永久劣後債	102,300,000	94,030,000	△ 8,270,000
東北電力第3回利払繰延・期限前償還条項付劣後債	200,000,000	196,980,000	△ 3,020,000
モルガンスタンレーファイナンスLLCインデックス連動債	200,000,000	194,940,000	△ 5,060,000
第57回ソフトバンクグループ社債	200,000,000	198,560,000	△ 1,440,000
合 計	702,300,000	684,510,000	△ 17,790,000

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交 付 者	前期末 残 高	当 期 増加額	当 期 減少額	当期末 残 高	貸借対照表上 の記載区分
選手強化活動事業	日本オリンピック委員会	0	53,478,182	53,478,182	0	—
コーチ力強化事業	日本オリンピック委員会	0	2,950,000	2,950,000	0	—
次世代アスリート育成強化事業	日本オリンピック委員会	0	47,106,364	47,106,364	0	—
強化活動DX化推進支援事業	日本オリンピック委員会	0	5,850,910	5,850,910	0	—
日韓競技力向上スポーツ交流事業	日本オリンピック委員会	0	7,932,633	7,932,633	0	—
競技会開催競技力向上事業 第108回日本陸上競技選手権大会・20km競歩	日本スポーツ振興センター	0	4,800,000	4,800,000	0	—
競技会開催競技力向上事業 第108回日本陸上競技選手権大会・室内競技	日本スポーツ振興センター	0	6,000,000	6,000,000	0	—
発掘育成 U19強化研修合宿	日本スポーツ振興センター	0	24,431,000	24,431,000	0	—
発掘育成 U20オリンピック育成競技者合宿	日本スポーツ振興センター	0	37,224,000	37,224,000	0	—
スポーツ大会開催 リレーフェスティバル2024	日本スポーツ振興センター	0	12,800,000	12,800,000	0	—
ドーピング検査事業 ドーピング検査	日本スポーツ振興センター	0	1,331,000	1,331,000	0	—
ドーピング防止啓発活動事業 アンチドーピング教育	日本スポーツ振興センター	0	1,350,000	1,350,000	0	—
危機管理体制の整備・運用事業	日本スポーツ振興センター	0	720,000	720,000	0	—
選手強化交付金 選手強化NF事業全般	日本オリンピック委員会	0	11,350,000	11,350,000	0	—
選手強化交付金 JOCオリンピック選手強化マーケティングプログラム	日本オリンピック委員会	0	889,280	889,280	0	—
オリンピック終了特別交付金	日本オリンピック委員会	0	11,305,419	11,305,419	0	—
科学・医学的研究事業助成金	ミス/スポーツ振興財団	0	3,500,000	3,500,000	0	—
国内競技会補助金 日本選手権	上月財団	0	1,000,000	1,000,000	0	—
Continental Tour Gold 開催補助金 セイコーゴールデングランプリ	World Athletics	0	9,888,450	9,888,450	0	—
国際スポーツ大会開催支援事業分担金 セイコーゴールデングランプリ	東京都	0	16,727,583	16,727,583	0	—
開催地負担金 U18U16陸上競技大会	三重県・伊勢市	0	20,000,000	20,000,000	0	—
神戸市スポーツ協会助成金 日本選手権20km競歩	兵庫陸上競技協会	0	1,500,000	1,500,000	0	—
合 計		0	282,134,821	282,134,821	0	

10. 関連当事者との取引の内容

なし

11. 重要な後発事象

なし

12. その他

なし

附 属 明 細 書

1. 基本財産および特定資産

基本財産および特定資産の明細については、財務諸表の注記において記載している。

2. 引当金の明細

引当金の当期の増減額および残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
貸倒引当金	1, 557, 044	1, 736, 779	0	1, 557, 044	1, 736, 779
賞与引当金	18, 928, 150	19, 280, 067	18, 928, 150	0	19, 280, 067
退職給付引当金	136, 477, 469	24, 967, 878	16, 424, 400	0	145, 020, 947

財産目録

2025年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	合 計	
(流動資産)	現金	手許保管	運転資金として	336, 973	
	普通預金	三菱ＵＦＪ銀行 渋谷支店	同上	818, 894, 074	
			(現金預金計)	819, 231, 047	
	未収入金		公益目的事業・協賛金・助成金他に関する未収入金	286, 807, 852	
			法人会計に関する未収入金	382, 510	
			(未収入金計)	287, 190, 362	
	立替金		公益目的事業・競技会運営等に関する立替金	2, 269, 490	
			法人会計に関する立替金	3, 420	
			(立替金金計)	2, 272, 910	
	仮払金		公益目的事業・競技会運営等に関する仮払金	10, 709, 432	
	前払費用		公益目的事業・保険料他に関する前払費用	14, 409, 382	
			法人会計に関する前払費用	4, 471, 362	
			(前払費用計)	18, 880, 744	
	貯蔵品	審判員カード (5, 101枚)	公益目的事業・審判員資格保有者に供する	204, 040	
		審判員バッジ (1, 221個)	同上	256, 410	
		審判員手帳 (3, 125冊)	同上	656, 250	
		C級カード (6, 190枚)	同上	247, 600	
		検定メジャー (28個)	同上	2, 128, 000	
		テーブルキャッチャー (65個)	同上	195, 000	
			(貯蔵品計)	3, 687, 300	
	貸倒引当金		未収入金等に対する貸倒引当金	△ 1, 736, 779	
流動資産合計				1, 140, 235, 016	
(固定資産)	基本財産	基本財産引当預金	(定期預金) 三菱ＵＦＪ銀行 渋谷支店	公益目的事業、法人の運営管理目的保有財産であり、基本財産の運用益のうち５０％を公益目的事業、５０％を法人の運営管理に使用している。	497, 700, 000
		基本財産引当有価証券	第7回三井住友フィナンシャルグループ 任意償還条項付永久劣後債	同上	102, 300, 000
			第57回ソフトバンクグループ 社債	同上	200, 000, 000
			東北電力第3回利払繰延・期限前償還条項付劣後債	同上	200, 000, 000
			モルガンスタンレーフィナンシャルLLCインデックス連動債	同上	200, 000, 000
			(基本財産計)		1, 200, 000, 000
	特定資産	退職給付引当預金	(定期預金) 三菱ＵＦＪ銀行 渋谷支店	職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき引当てている	145, 020, 947
		国際競技会開催引当預金	(定期預金) 三菱ＵＦＪ銀行 渋谷支店	特定費用準備資金であり、国際競技会開催のために引当てている	450, 000, 000
		人材育成事業引当預金	(定期預金) 三菱ＵＦＪ銀行 渋谷支店	特定費用準備資金であり、陸上に関わる人材育成のために引当てている	30, 000, 000
			(特定資産計)		625, 020, 947
	その他固定資産	建物付属設備	移転内装工事 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	共用財産であり、公益目的事業、法人の運営管理に使用している	10, 457, 943
			移転照明工事 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1, 702, 995
			移転電源工事 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1, 251, 141
			壁画アート内装工事 (エントランス) 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	833, 339
			専有フロアB工事 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	9, 734, 172
			(建物付属設備計)		23, 979, 590
		什器備品	I A A F キッズアスレティック器具 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	公益目的事業に使用している	1
			ノートＰＣ (Surface) 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
			ノートＰＣ (Surface) 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	法人の運営管理に使用している	1

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	合 計
		無線式光電管測定器1 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	公益目的事業に使用している	1
		ノートP C (Surface) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	法人の運営管理に使用している	1
		人工芝マット142.9㎡(かけっこイベント用) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	公益目的事業に使用している	1
		コピー機 キヤノン iRC7580 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	共用財産であり、公益目的事業、法人の運営管理に使用している	1
		コピー機 コニカミノルタ C754e 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		無線式光電管測定器2 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	公益目的事業に使用している	1
		ノートP C (Surface) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		ノートP C (Surface laptop) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		ノートP C (Surface laptop) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		ノートP C (Surface laptop) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		タブレット端末(iPadPro wifiモデル512GB)NTC 北区西が丘3-1 5-1 味の素ナショナルトレーニングセンター	同上	1
		タブレット端末(iPadPro wifiモデル512GB)NTC 北区西が丘3-1 5-1 味の素ナショナルトレーニングセンター	同上	1
		アイスバス(iCepot-Duo)NTC 北区西が丘3-1 5-1 味の素ナショナルトレーニングセンター	同上	1
		サイネージディスプレイ横型2台(エントランス) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	共用財産であり、公益目的事業、法人の運営管理に使用している	1
		4面マルチスクリーン(会議室A) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		液晶テレビ(会議室B) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		液晶テレビ(会議室C) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		液晶テレビ(会議室D) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		液晶テレビ(フリースペース) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		セキュリティカメラ(エントランス) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		R型表彰台ベンチ(エントランス) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	100,888
		アークベンチ(エントランス) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	161,826
		カウンターテーブル(エントランス) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	433,339
		A V機器収納ラック(会議室A) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	32,505
		ホワイトボード(会議室A) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		会長デスク(会長室) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	189,589
		応接テーブル/チェア一式(会長室) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	699,430
		キャビネット(会長室) 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	73,480

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	合 計
		ファミレスベンチ/テーブル一式（ミーティングスペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	共用財産であり、公益目的事業、法人の運営管理に使用している	660,159
		ハイカウンター/収納棚一式（カフェスペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	673,701
		冷蔵庫（カフェスペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	10,450
		R型ベンチ/収納棚一式（フリースペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	473,964
		ソファ一式（フリースペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	180,784
		ローテーブル（フリースペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	47,401
		窓側ラウンドテーブル（ワークスペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	57,585
		職員用デスク一式（ワークスペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	829,026
		専務局長用デスク一式（ワークスペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	80,010
		職員用ロッカー一式（ワークスペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	443,955
		スライドキャビネット一式（ワークスペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	411,293
		金庫（ワークスペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	325,343
		ハンガーラック（ストックスペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	47,401
		パンフレットラック（エントランススペース） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	86,672
		ノートPC（Surface laptop） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	公益目的事業に使用している	1
		ノートPC（Surface laptop） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		ノートPC（Surface laptop） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		ノートPC（Surface laptop） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		ノートPC（Surface laptop2） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		ノートPC（Surface laptop2） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		唾液中マーカー測定器（科学委員会） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		会議室管理ユニットサイネージ①（会議室A） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	共用財産であり、公益目的事業、法人の運営管理に使用している	1
		会議室管理ユニットサイネージ②（会議室B） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		会議室管理ユニットサイネージ③（会議室C） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		会議室管理ユニットサイネージ④（会議室D） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		オフィスLANアクセスポイント機器本体 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		ノートPC（Surface laptop3①） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	法人の運営管理に使用している	1
		ノートPC（Surface laptop3②） 新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	公益目的事業に使用している	1

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	合 計
		ノートＰＣ（Surface laptop3③） 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	公益目的事業に使用している	1
		ノートＰＣ（Surface laptop3③） 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	1
		ノートＰＣ（Surface laptop3③） 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	同上	4,358
		J A A F ロゴバナー 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	共用財産であり、公益目的事業、法人の運営管理に使用している	1
		ノートＰＣ（Surface laptop4） 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	法人の運営管理に使用している	28,449
		小学生陸上バナー 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	共用財産であり、公益目的事業、法人の運営管理に使用している	20,628
		ノートＰＣ（Surface laptop4） 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	法人の運営管理に使用している	76,792
		サイネージディスプレイ縦型（エントランス） 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	共用財産であり、公益目的事業、法人の運営管理に使用している	183,424
		トレーナーベッド（医事委員会）GOTOHARI治療院 愛知県岡崎市江口１丁目１番地１６	公益目的事業に使用している	191,377
		T E A M J A P A N バナー 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	共用財産であり、公益目的事業、法人の運営管理に使用している	211,202
		ノートＰＣ（FUJITSU FM-V 施設用器具委員会） 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	公益目的事業に使用している	168,751
		可搬型パワー評価訓練システム機器①（NTC） 北区西が丘３－１５－１ 味の素ナショナルトレーニングセンター	公益目的事業に使用している	3,687,501
		可搬型パワー評価訓練システム機器②（NTC） 北区西が丘３－１５－１ 味の素ナショナルトレーニングセンター	同上	3,687,501
			(什器備品計)	14,278,825
	差入保証金	JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 入居保証金 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	法人の運営管理に使用している	10,458,000
			(差入保証金計)	10,458,000
	ソフトウェア	JAAF PROTEINシステムSTEP1 新宿区霞ヶ丘町４－２ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9F	公益目的事業に使用している	5,045,834
			(ソフトウェア計)	5,045,834
固定資産合計				1,878,783,196
資産合計				3,019,018,212
(流動負債)	未払金		公益目的事業に関する未払金 法人の運営管理に関する未払金 (未払金計)	135,769,074 9,326,530 145,095,604
	預り金		公益目的事業に関する預り金 法人の運営管理に関する預り金 (預り金計)	462,329 1,839,139 2,301,468
	仮受金		公益目的事業に関する仮受金 (仮受金計)	60,339 60,339
	賞与引当金		職員の賞与に供する	19,280,067
	未払消費税等			5,623,500
流動負債合計				172,360,978
(固定負債)	退職給付引当金		職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき引当てている	145,020,947
固定負債合計				145,020,947
負債合計				317,381,925
正味財産				2,701,636,287

監 査 報 告 書

公益財団法人 日本陸上競技連盟

会 長 尾 縣 貢 殿

公益財団法人 日本陸上競技連盟

監 事 野 尻 久 美

監 事 細 田 正 典

監 事 吉 村 祐 美 子

私たち監事は、公益財団法人日本陸上競技連盟の 2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その結果を次のとおり報告いたします。

1. 監査方法及びその内容

- (1) 計算書類及び財産目録の監査については、帳簿の閲覧、会計証憑の確認、決算書類の表示の検討等、必要と認められる手続きを実施しました。
- (2) 理事の職務並びに事業報告及びその附属明細書の監査については、理事会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧、その他必要と思われる監査手続きを実施して、理事の職務の遂行並びに事業報告及びその附属明細書の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 事業報告及びその附属明細書に関する監査結果
事業報告及びその附属明細書は、法令又は定款に従い当法人の状況を正しく示していると認めます。
- (2) 理事の職務の遂行に関する監査結果
当法人の理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 計算書類及び財産目録に関する監査結果
計算書類及び財産目録は当法人の財産及び正味財産の増減の状況をすべての重要な点において適正に表示していると認めます。

以 上